

クマが通学路や住宅近くで毎年のように目撃される相模原市緑区の山間地域の子どもたちに12日、市内の電機会社で働く母親らが手作りした「熊除け鈴」が贈られた。端材を有

効活用したもので、関係者が市立藤野小学校（同区日連）を訪問、山間地域の計10小中学校の児童生徒計約820人分を届けた。

（狩野 武夫）

相模原の電機会社 山間地域児童らに寄贈

安全な通学へ熊除け鈴



山間地域の児童生徒に贈られた手作りの「熊除け鈴」

訪問したのは、産業用機械の制御盤を製作している中村電機（同市南区大野台）の中村勝彦社長（42）と、パートの福田智枝子さん（38）ら子育て中の従業員。中村社長は「製造過程で余ったカラフルな電線の端材が子どもたちの安全な通学に役立てば」と、熊除け鈴に目を付けた。端材で自分用のアクセサリを作っ

た。訪問したのは、産業用機械の制御盤を製作している中村電機（同市南区大野台）の中村勝彦社長（42）と、パートの福田智枝子さん（38）ら子育て中の従業員。中村社長は「製造過程で余ったカラフルな電線の端材が子どもたちの安全な通学に役立てば」と、熊除け鈴に目を付けた。端材で自分用のアクセサリを作った。各学年の代表が熊除け鈴を受け取った。児童会役員で5年の榎本有伽さん（11）は、これまでは人通りの多い道を選ぶなどクマに注意していたといい、「鈴が大きくてきれい。ランドセルに付けます」と喜んで

中村社長は「1個ずつ心を込めた手作り品。かばんやランドセルに付け、クマから身を守ってください」と呼び掛けた。子どもたちに直接手渡した福田さん

などお薦めの商品の写真や

従業員ら手作り



贈られた「熊除け鈴」を手にする児童と、お礼にもらった大根を手にする中村電機の中村社長（後列の左から2人目）と制作を担当したパート従業員
—相模原市緑区の市立藤野小学校

相模原市民の4人に3人が「これからも（相模原に）住みたい」と考えている。市民のそんな動向が、市が実施した市政に関する世

「相模原」が理由の上位を占めた。「米軍基地の飛機の騒音がひどい」を挙げた人もいた。「市に『自分のまち』といった愛着や親